

令和3年度 第1回 沖縄県 SDGs 専門部会 Peace（平和）部会
議事概要

日時：2021年12月20日（月）13:00～14:30

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

石垣委員、岩村委員、喜納委員、玉那覇委員、村上委員

（沖縄県）

島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）

それでは定刻になりましたので始めさせていただきますと思います。企画調整課 SDGs 推進室の平良と申します。よろしくお願いいたします。

委員の皆様のご紹介もさせていただきますが、その際、委員の皆様からひと言ずつご挨拶をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

沖縄ユネスコ協会の理事長、石垣皓次委員から一言いただきたいと思います。

（石垣委員）

沖縄県ユネスコ協会の石垣と申します。ユネスコの方でも、国際機関ですから SDGs については取組を強めているところです。この SDGs、2030 まではあと8年、もう8年なのか、まだ8年なのかそこらあたりも皆様方との話合いを通じて学んでいきたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。続きまして一般社団法人沖縄県環境科学センター業務部長兼 SDGs 事業実行班長 岩村俊平委員、よろしくお願いいたします。

（岩村委員）

沖縄県環境科学センターの岩村と申します。環境科学センターは沖縄県において、公共の安全・安心のベースラインを支えてきたような、地味でありながらそういった会社でございます。私は今 SDGs 事業実行班という、小規模であっても事業の推進というよりは、立ち上げて事業を動かしていくというような立場で、世界というよりかはまずインサイドアウト、県内、地域というところに根ざした活動しております。皆さんよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして、琉球大学国際地域創造学部国際言語文化プログラム教授、ジェンダー協働推進室長、喜納育江委員 よろしく願いいたします。

(喜納委員)

皆さんこんにちは。琉球大学の喜納と申します。おなじみの顔ぶれもいらっしゃるかなと思いますが、琉球大学のジェンダー協働推進室の室長をしております。大学のレベルでもジェンダー平等、多様性の確保という言葉は言われている時代で、沖縄県に関しましてもジェンダー平等まだまだ改善する余地がたくさんありますので、そのあたりを重点的に私の方で何かお力になればと思って参加しております。他の分野のところも勉強できるのを楽しみにしております。よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして特定非営利活動法人うらおそい歴史ガイド友の会事務局長 玉那覇清美委員、お願いいたします。

(玉那覇委員)

こんにちは。うらおそい歴史ガイド友の会事務局長の玉那覇です。SDGs というのは最近できた言葉で私たちはそれ以前から活動をしています。今から16年ほど前から子ども達にずっとやっていて、今現在も活動中でございます。観光客はもちろんのこと、県外から来る学生ですね。修学旅行生もそうですが、平和学習に限らず地域の埋もれた史跡の掘り起こしとかもやっています。特に浦添グスクという前田高地、先の大戦での激戦地だったということもありまして、ハクソーリッジという映画がありました。その時に一気に盛り上がりがありました。現在は映画上映あった時の盛り上がりはないですが、未だに米軍関係とか県外からのお客さんはハクソーリッジに関心を持ってグスクの方に見えています。前田高地というと米軍の方からは地獄を一つにまとめたものという形で表現されるほどの凄まじい戦場だったということもありまして、それを重きにおきましてずっと活動をしています。今現在会員は42名、平均年齢は大体70前後、その年代層を中心に活動をしております。よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きましてころ法律事務所弁護士 村上尚子委員、よろしく願いいたします。

(村上委員)

皆さんこんにちは。弁護士の村上尚子です。この専門部会、初めての試みだと思いますが、

私もこの専門部会でどんなことをやっていくのか、初めてなのでまだよく分かっていない部分があります。基本的には良い社会を作っていこうという未来に向けての楽しい会議になればいいなと思っています。よろしくお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。沖縄キリスト教学院大学 新垣誠委員は、本日は都合が合わず欠席となっております。ここからは、企画調整課 SDGs 推進室 島津室長にて進行させていただきます。

(進行)

皆様こんにちは本日の進行をさせていただきます SDGs 推進室長の島津です。どうぞよろしくお願いいたします。去る9月に沖縄県実施 SDGs 実施指針を定めまして、その実施指針に基づいて県民と共に一緒にできる SDGs アクション、具体的な目標を定めていこうということで今回専門部会の皆様から広くご意見、ご提言をいただきたいと思っております。どうぞ忌憚のないご発言、お寄せいただけたらと思います。

はじめに事務局より資料をご説明いたしまして委員の皆様からご意見を頂戴する形で進めていきたいと思っております。では事務局の方から説明をいたします。

(事務局)

資料は4つお送りしておりますが、主に資料1を中心に説明させていただきます。所々資料4を使うという形で進めさせていただきます。

資料1の1ページ目にアクションプランの位置づけがあります。こちらがアクションプランのイメージ図になっておりますが、今年9月に策定した実施指針に基本理念を定めております。実施指針の検討にあたり、沖縄21世紀ビジョンの将来像を踏まえながら、12の優先課題というのを整理した経緯があり、アクションプランの構成においてこのように位置づけています。この優先課題、12個ありますけども、それぞれに2030年に実現したい沖縄の姿、目標を整理して、SDGsのゴール、ターゲット、ローカル指標を整理する予定です。さらに2030年、こういう沖縄になったらいいなという目標を実現するため、どういうアクションを起こしていくのかを整理する予定です。本年度はこの部分を議論させていただいて、来年度以降に具体的な施策、取り組み等を詰めていきたいと思っております。

次のページですが、検討にあたってのインプット情報として、県民アンケートを9月から12月にかけて実施させていただき、1,686件の回答をいただきました。離島からも2割程度、あとは若い方々多くのご意見をいただきました。県民アンケートの結果は資料3として送らせていただきましたが、会議の時間も限られていますので、後日気になるところとありましたらご連絡いただければと思います。インプット情報としては、沖縄21世紀ビジョン9月策定した実施指針のパブリックコメントに寄せられた意見、新たな振興計画の要素

などを入れております。若者の意見収集が重要であるという意見もあり、SDGs のアイデアコンテストなどのイベントでの提案なども活用させていただいています。その他いろいろなアンケート、もしくは提言、イベントの意見等も活用させていただいて、骨子のたたき台をとりまとめたところです。ゴール、ターゲット、ローカル指標は、素案を作る段階で設定し、意見をいただく予定をしています。

検討のプロセスとしては、赤字のところまで進んでいるということで色分けしています。先週 12 月 16 日にアドバイザリーボード会議という有識者会議がございました。ここで大枠の議論をさせていただいて意見を踏まえ、今日から SDGs 専門部会の意見議論というところが来週の火曜日ぐらいまでかけて進めていきます。1 月には関係団体、市町村等に意見照会を行う予定です。

骨子のたたき台については、3 ページ目に、基本理念、将来像、優先課題の内容を記載させていただいております。平和部会は主に優先課題⑧と⑨がテーマとして該当しますが、事前説明の通り、全体にかけてご意見をいただければと思います。例えば共創型の優先課題⑨の中でもジェンダー関係のゴール、ターゲットは関連づけていますし、優先課題①の誰もが活躍できる社会の実現というところでも同様に関連づけています。いろいろなところに連動していますので、全体を通して意見をいただければと思っております。

事例としてページ 4 をご説明します。優先課題①を示しておりますけども、優先課題①の 1 は性の多様性、障害者、1 人 1 人誰もが活躍できる社会、趣旨は多様性の尊重と個人の尊厳というテーマになっています。これに関する目標、実現するためのアクションをたたき台として、項目立てをしています。

次のページの方に、インプット情報として、県民アンケートの定量的な情報と定性的な情報としてのテキスト情報を整理しています。全部を入れることが難しいので主なところを抜粋する形となっています。また、新たな振興計画、その他の県の計画上の考え方等の情報を整理しています。一つの優先課題のシートに対して、バックグラウンドとしてのアンケートや計画等の位置づけとして整理しており、これらを参考にしながら実現に向けたアクション等を検討したということを解るように整理しています。

今回関係している⑧、⑨の方をご覧いただくと、⑧としては基地から派生する諸問題の解決を大きく二つ切り分けている構造になっています。基地から派生する諸問題については、米軍から派生する事件事故等をまとめてこういう記載内容になっています。大きく基地から派生する諸問題の解決という考え方と、平和を希求する心ということで、平和学習も含めて平和の情報発信というこの大きく二つに分かれています。

もう一つ共助・共創型の安心安全の社会の実現ということで大きく三つに分かれています。事件、事故の防止から弱者、犯罪防止、被害者支援、あとはコミュニティです。共助・共創型の社会の構築ということでその観点で三つの社会像とアクションというのをまとめています。こちらも同様にこのような形でインプット情報を整理しています。

このたたき台を作るにあたりましてローカルな課題、地域課題の解決という観点での検

討というのが視点として大きくありました。もう一つ、先週のアドバイザリーボード会議の中で、SDGsの17のゴール、169のターゲットなど、グローバルスタンダードの視点を持って検討すべきというご意見がありました。そういった観点もあり、資料4で優先課題に関連するゴール、ターゲットを表にまとめさせていただきました。例えば関連する⑧、⑨ですと、ゴール3、6、10、11、14、16とそれぞれのターゲットが整理されています。他の優先課題で重複するため数が多くなりますが、これらの観点からもアクションを検討していくべき、地域課題の解決という方向性にもこういった視点を入れながら議論していく、表現の在り方を考える、どこまでやるのかということも考えることを検討する必要があるといったご意見がありました。この検討については、事務局の方で素案を検討する中で整理していきたいと思いますが、グローバルスタンダードとの関連性も委員の皆様と共有しながら進めていければと考えているところです。

アドバイザリーボード会議におけるその他の意見をご紹介しますと、アクションが個別の取り組みになっており、統合的なアプローチとした形も必要という意見がありました。優先課題⑧、⑨の分野にこだわらず、課題を統合的に解決していくという観点を持ちながら議論をさせていただければなと思っております。

最後にもう一つ、声が届きにくい方々の声をどうやって拾っていくか、そのアプローチを工夫、努力しながら進めるべきという意見がございました。日頃そういった方々に接していられっしやる方にも委員としてご参加いただいておりますので、そういった意見もお願いできればと思います。その他のアプローチとして、どういった工夫ができるのかということもお知恵をいただければと思います。

一旦事務局からの資料の説明はこれで終わらせていただきます。

(進行)

事務局から説明がありました事項について、広くご意見を頂戴したいと思います。最初は私の方からご指名をさせていただきたいと思います。まずは琉球大学の喜納先生、よろしく願いいたします。

(喜納委員)

沖縄らしさにこだわった内容かなと思っております。常々こういうプランとかいうことを策定する時に感じるのですが、私は文学が専門なので表現なども結構気になったりしますが、割と明るい表現が多いというか、問題を顕在化させるというよりも、未来に向かって前向きにという表現がすごくあると思います。SDGsはそもそも2030年までに片付けないといけない問題が地球上に山積みで、それをムーンショット、後に戻ってその30年に達成するために20年時点で何しなきゃいけないか、かなり切迫したプランというものを立てなきゃいけない作業だと思っております。その時にここで書いてあるような柔らかい文言で大丈夫かというのがあって、例えばDVの問題にしてもジェンダー平等の問題にしても、結構シ

ビアな問題が山積みなので、そこをきちっと見据えたようなちょっと厳しめのプランになってもいいのではないかというのが全体的な印象でした。変に絵に描いた餅にならないようにすることが必要かなと感じています。

男女共同参画審議会の委員にも出ているのですけども、これやった方がいいことというのは結構書かれているのですが、目標がそんなに高くないので難なく達成できるとかですね。達成不可能な指標を立てても困りますけど、ある程度は高い指標にしないとそこを簡単に「達成できてるからいい」というものにならないか懸念されます。その辺を意識しながら少し厳しい内容になっても実効性のあるものを立てた方がいいのではないかなという印象を持ちました。

(進行)

ありがとうございます。事務局からコメントをお願いいたします。

(事務局)

喜納先生貴重なご意見ありがとうございます。人権問題に関してはある程度厳しくした方がよいのではないかと、アドバイザーボードの中でも表現がこれでいいのかというご意見もありました。SDGs は人権も非常に重要なテーマになっております。そういう意味でグローバルスタンダードという意見もありますが、SDGs のゴール、ターゲットの中で 2030 年までにここまでやるという目標もありますので、そういったことも意識しながら見直したいと思います。指標設定等で状況を見える化をしていくことも重要かと思えます。ローカル指標の設定において検討させていただきますので、改めて意見をいただければと思います。

(進行)

事務局ありがとうございます。続いて安心・安全・人権というところで村上先生、よろしくをお願いします。

(村上委員)

この基地問題に対して、私は県振興審議会の総合部会に入っていて、そこと同じような事が書かれているのかなと思いました。振興計画との違いをどう捉えればいいのか分からないなと思ったのと、振興計画にはない部分での SDGs に関することをここで詳しくやっていくのかなとも思いました。基地問題はある程度重なるかなと思ったのでその棲み分けみたいなものあるかと。今回はこのアクションプランを作るというところまでと思うんですが、何かあまりこの具体的な指標とか計画というところまではいかないので、具体性のある所までの検討にはならないのかなと思いました。大きな目標は重要ですが、どの程度まで、今たたき台に具体的な施策とか指標とか、もっと今後検討していく项目的なものを広く漏れがないように入れ込んでいくという理解でよろしいでしょうか。

(進行)

事務局の方からお願いいたします。

(事務局)

振興計画との棲み分けについて、説明させていただきますと、振興計画、基本的には少し重なる部分はあると思います。アクションプランは、県だけではなくて皆でこういうことをやっていきましょうという広がりを持たせた形を予定していて、振興計画で議論されている施策、方向性からちょっとはみ出してくるものを出てくるだろうと思っております。基地関係に関しましては県民みんなで一つのベクトルで「こういうこと目指そうよ。」という主体としての位置付けがなかなか難しいところがあり、アクションとしてのたたき台としては振興計画の範囲内で整理をしたという状況です。これから市町村や関係団体等からも意見収集をしていきますので、色々な意見も踏まえながら議論をしていければと思っております。基地問題については賛否も含めて色々な多様な意見がアンケートでもあって、多数決で物事を整理するのではなくて、みんなが進められる方向性で形を作っていきたいという基本的なコンセプトがあります。優先課題を議論した「SDGs に関する万国津梁会議」でも同様な議論もあり、これらを踏まえながら、たたき台というのは作らせていただきました。これをもとに意見をいただければというのが考え方でございます。

もう一つ、どこまでやるのかということですが、アクションプランについては、優先課題を見ても具体的に何をしたいかわからないというご意見が色々な方からございました。例えば、平和を希求する沖縄としての平和の発信貢献という話になった時に、具体的に何をしようということが分かりやすく示されると、企業の方が乗っかりやすいといったご意見があったりします。それで優先課題のもとに、何をしていくかの見える化をすることが今回のトライになっています。

資料1の1ページ、これがアクションプランの全体のイメージになっています。沖縄らしいSDGsの所にローカル指標として、アウトカム的な指標を設定したいと思っています。国連が定めたゴール、ターゲットと、地域の状況を見える化の指標を入れることが1点、アクションに対する具体的な取り組みを議論し、官民の連携等の様々な取組が生まれてくるということも期待しています。

こちらは説明を割愛しましたが、来年度プラットフォームを作ろうと考えております。企業、団体、市町村、県民、色々な人たちの連携する場というのを作っていかうと、その中で官民のミーティングみたいな場というのも継続的に作り、アクションプランをベースに、取組を具体化していくということも同時に進めていかうと思っています。アクションプランを作るという話と、官民連携の枠組みを作っていくということを連動させていきたい、その中で色々な課題の解決に向けたアプローチというのが生まれてくるように取り組んでいきたいという考え方で。

(進行)

ありがとうございます。続きまして岩村委員、よろしくお願いいたします。

(岩村委員)

全体的に配慮して今ある政策との関連性、これらを考えていくと網羅的な表現に一部ならざるを得ないところがある一方で、喜納先生がおっしゃったように具体的に何ができるのというところの部分がどのように展開されていくかが重要だと思います。その中で例えば連携とか、パートナーシップがSDGsの肝のように言われていますけども、皆さんから何していいかわからないという相談をよく受けます。どうやって連携するかというところがボトルネックになっていると思いますから、この辺をアクションプランで表現できるというかなという気はします。世界の課題解決という点が重要である一方で、見方がアウトサイドインで他人事のように感じてしまうという問題があります。やはりインサイドアウト、できることからコツコツというのは馴染みやすいというのがあります。もう一つ言えば、活動自体がSDGsじゃないといけない、民間をどう取り込んで、公共事業に必ずしもよらない座組でどうWin-Winで進めていくかというところがポイントになります。最後に沖縄県の幸福度は全国1位です。対して県民所得は最下位となっています。どうやってお金を増やすのかという議論はありますが、幸福度との関連性について慎重になった方がいいというところがあります。幸福度と反比例する恐れもありますので、懸念事項として常に持っております。

(事務局)

ご意見を踏まえながら検討させていただきたいと思っています。民間の巻き込み非常に重要で、最近金融機関も非常に関心が高まりつつあるので、金融機関のそういう投資のところからのアプローチも視野に入れながら、マインドを変えていくような形で取り組みたいと思っています。幸福の話はご意見を踏まえながら検討したいと思っています。

(進行)

それでは続いて、うらおそい歴史ガイド友の会、玉那覇委員よろしくお願いいたします。第1回ちゅうちな一草の根平和貢献賞も受賞されているということで、平和学習、子ども達との関わりなどについてもお話いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(玉那覇委員)

令和元年に草の根平和貢献賞をいただきました。本当にありがとうございます。優先課題⑧の沖縄戦の体験・記録・保存・調査と書いてあります。私たちも沖縄戦の体験者の証言集というのを5年ほど前から採取していますが、人を探すのは大変難しい。ご存命と言っても90、80後半とかが多いです。もうちょっと早めにこれに着手をすれば良かったなというの

が友の会の反省点です。それと同時に次世代につなぐ担い手というところの育成というところでは、子どもガイド養成というのをもう一度挑戦したいなどと計画しています。

あと一つ、ヤングケアラーとか子どもの貧困状態とか今いろいろあります。私は民生委員もやっていて、そういった子ども達・世帯に関わることが度々あるので、自分自身が小さかった頃と比較するのですが、今は個々の家庭というのがほとんどで、私たちが小さい時は3軒隣まで全く身内でもないけれど、身内みたいな感じでお付き合いをしていたというのが私の感覚の中ではあります。今はそういったものがない、ヤングケアラーにしてもそうだし、何かあれば隣近所で皆が助け合いというのがあったのですが、ゆいまーる精神といったものが欠けてきているのではないかなと思っています。地域の輪とか人の輪も表面上だけの取り繕った輪だけができていないのかなと思っています。

米軍基地から発生する騒音の問題ですが、ようどれ資料館の上空もオスプレイが飛びます。騒音問題の軽減は求めてもできるのかなかと思いますが、基地関連は大変難しいと思うんです。私だけに限らずやっぱり沖縄県民の皆さんそう思っているのではないかなと思いますし、そこら辺のところはどんなふうに思っているのかなかと思っています。

(進行)

ありがとうございます。事務局からコメントがあればお願いします。

(事務局)

ゆいまーる精神、輪の話も重要な話だと思います。県民アンケートの結果の中でも、例えばどういった時に幸せを感じるかという設問も入れていますが、友人知人と会う時に幸せを感じるという意見は全世代多いです。若い方々の特徴を捉えていると思われるのが SNS で繋人につながる時に幸せを感じるというところも多く、傾向があって、地域の輪の作り方も少し形が変わってきているのかなかと思っています。色々工夫してコミュニティを作っていくことが大事だと思っているところです。

基地から派生する諸問題については、基地そのものをという議論の一方で、人権的な問題、環境的な問題というのは課題としてありますので、求めていくということになるかなかと思っています。騒音問題、環境問題というのは県民全体みんな意識が共有できる、ベクトルを揃えられるだろうと思っており、一旦まとめさせていただきました。ご意見を色々とお伺いしながら検討していきたいと思っています。あくまでもたたき台ですので、色々ご意見いただければと思います。

(進行)

ありがとうございます。石垣委員、ユネスコの活動を通して、ご発言をお願いいたします。

(石垣委員)

ユネスコについて紹介からいきたいと思います。ユネスコの精神は前文に書いてありまして「戦争は人の心の中に起きるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」これは有名な文言です。無理解の中で、お互いを理解し合わない中で、不一致の中で、戦争というのが起きたと、戦時体制もですね。そういう理解の上に成り立っております。ユネスコは United Nations に続いて Educational からはじめます。教育ですが、理解しようということを訴えているわけです。政治的な取り組み、あるいは経済的な取り組みの中で平和が築けないということはもう分かったという精神も踏まえております。結論、平和を失われたいためには人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならないというようなものをユネスコの精神として、私たち沖縄県ユネスコ協会も活動しているところです。平和を希求するのにも色々な立場があります。沖縄県ユネスコ協会、私たちの協会にしても幅広い政党支持者が入っています。ユネスコの全国大会には韓国からも中国からもユネスコの使節を受け入れていますし、国連の中でユネスコだけがパレスチナも一緒にテーブルに座っているという状況があります。敵を作らない、そのためにはお互いを理解し合うことからというのが機運になっており、お互いの心情、習慣を全て納得し合うということからいくわけですが、活動の難しさを感じたりします。

今日のたたき台を見ておまして、20 ページの下から4行目になりますが、右端。平和を伝えるというと堅苦しいイメージがあり、難しいところはここにも起因するのかなと思ったりしています。喜納委員の方から文言が柔らかすぎないかというのがあったのですが、柔らかさもある程度持たないと、皆で一緒になれないという世界もあると思うのですね。そこからあたりは事務局が研究していただいたらありがたいなと思います。

あと1点で、SDGs ももちろん世界全員みんなが進めないといけない活動だと理解しておりますけど、2億何千万が自国難民になるという新聞記事が載っておりました。2億何千万の難民を作って何がSDGsかという気にもなります。1人も取り残さないと言いながらそういうものも世界の中で作っていく。これは由々しき問題だなと思います。私たちの日々の生活で私たち自身が生活をそんなに見直しきれていない。思うにわがままとの戦いじゃないかなと。これは私にも言えます。例えば今日わずか30分程前ですが、愛煙家なもんですから一服ふかしておりました。ふかしながらこれはSDGsと絡んだらどんなふう理解していけばいいのかなと思まして。例えば道にポイ捨ても駄目ですよ。色々考えたりしまして、タバコをやめることがSDGsにつながるかなと思ったりして。だから私が吸いたいという気持ちをどう消していくかという、これはわがままとの戦いだなと思っています。たたき台15ページを見ていますと、下の方の環境と人に優しい地域づくり、交通網、街づくりが実現しているというところですが、この2行目で過度な自家用車保有がありますよね。何をもとにして過度としているのか疑問でした。過度な自家用車保有から利用者は公共交通の利用転換を促進しよう。これなども一つのわがままとの戦いだと思う。そのわがままをいかに我々が抑えられるか、平和を希求しているユネスコ、私たちとしてもSDGs問題を皆様から

意見を拝聴しながら勉強して進めていきたいと思っています、

(進行)

石垣委員ありがとうございました。事務局からはどうでしょうか。

(事務局)

平和の話はおっしゃる通り、NGO も含めて別の枠組みが重要だと思います。別の優先課題と関連しますが、世代を超えて地域を超えて、諸外国の皆さんの文化とか歴史を理解しながら交流を広めていくことは大事だと思っています。世界のうちなーんちゅのネットワークを使いながら、より一層の交流を JICA 沖縄にもご協力いただいておりますが、特に若い人たちの国際理解というのを広めていくというところは大事だなと考えております。平和のアプローチ、国際交流を議論する専門部会にもお伝えして議論をさせていただければと思います。

もう一つ、我慢の話ですが、無知の話も委員からありました。知らないことが問題で、知っていただくと選択肢が変わってくるということもあると思っています。そういう意味では見える化というのは非常に重要ですけども、なかなか膨大な情報の中でどうやって効率的に見える化していくかというのはなかなか難しいところがございます。海外の社会実験として、自動販売機で安いTシャツを売るというそういう YouTube を見たことがあります。2セントのTシャツを自動販売機で売っているという動画でして、2セント入れてボタンを押そうとすると、どういった製造現場でどういった人たちが作ってるか。つまり、全然違う外国で若い女性とか子どもたちが労働的に搾取されながら非常に安い賃金で作っているビデオが流れ、最終的にこのTシャツを買うか買わずに寄付するかという選択肢が出てきますが、多くの方が寄付を選んだという動画です。知っていただくと選択が変わってくるということも特性ですので、アクションプランの取り組みも通じながら、理解していただく、分かっていただくということも大事だと思っています。

(進行)

ありがとうございました。皆様一通りご発言いただいたところです。喜納委員、琉球大学の中でも SDGs を取り入れてというところで学生さんたちの気持ちであるとか、沖縄の中でジェンダー平等のことも非常に取り上げられています。アクションプランで実際に何をどう具体的に皆に呼びかけていくかというのは非常に重要であると思っています。是非ご意見あればよろしく願いいたします。

(喜納委員)

先ほどの石垣先生のご発言を聴きながら皆様のご発言を聞きながら考えていたのですけども、琉大でもやはり SDGs というのを大学の一つの重要なポイントとしておこうということ

で学長が率先されて SDGs 推進室というのを学内に作りました。琉大は教育研究機関ですので教育の側面研究、そして社会貢献という観点から琉大からどういう知見を提供できるかということでやっています。難しいのはやっぱり大学自体が旗振り役になってやっても1人1人の構成員がよく理解していないという場合だと全然進まないです。一定の人々がやっているのを眺めているというか、傍観者というか。だから私たちの室ではどうやって自分ごととして、先ほどわがまを我慢するとおっしゃいましたけど、まさに自分に関係あることなのかということはどういうふうに理解してもらえるかということでも様々な取り組みを今考えているところです。

ジェンダーに関しましても、ジェンダーについては、ウチの大学の方では女性の教員が少ないです。大学というところは、今すごく頑張って2割ぐらいですね。全教授の中だと1割しか女性がいないです。そういう目に見える不平等みたいなものがあちこちにあるはずなのに、なぜ気づかないふりをするのか、あるいは気付かない方が良く考えてしまうのか。幸福度と経済的な充足度は違うというのがあって、やはり人を大切にするのか、経済的な利潤を大切にするのかというところで、そこでまた行動にも差が出てくると思うので、県としてはどこに力点を置いて、何を大切にする政策を目指すのかということも考えるべきかと思いますが、日頃私がジェンダーに関わりながら思っているところです。

だから女性に席を譲るといふか、ポジションが一つあって女性を充てるという事によって男性がそこに入るチャンスが失われると考えるのか、女性を入れることによって、これまでにないような変化を起こすことが組織のために良いと考えるのかという、そういう考え方の違いだと思う。県はこれまでやってきた、これまでの良いところもあるんですけど、これから先にこれまでやったことのないような何か取り組みというものを起こすようなプランにするのかどうかということが気になるし、先ほど厳しい表現にした方がいいと言ったのは、こう書いてしまうと完全にこれまでのやり方が踏襲されてしまうのではないかといいところもあります。だから厳しい言い方にして「何々をする」というよりは「何々をしない」という。「タバコをやめるようにする」というのではなくて、「タバコを吸わない」にするとかそういう意味でもうちょっと拘束力とか実行力に結びつくような何かそういうルールというか、そういうふうにした方がいいという意見でした。

(事務局)

是非そういったご意見も踏まえながら文章の文言表現も含めて見直しをしたいと思いますし、SDGs は誰1人取り残さないというキーワードが有名で基本理念としてありますが、アジェンダのタイトルに変革するという大きなテーマが入っています。変えていこうということが重要ですので、全体を見直していきたいと思います。

(喜納委員)

禁止的な表現にしなさいと言っているのではなくて、もうちょっと具体性を持った表現ということですよ。

(事務局)

ありがとうございます。

(進行)

他に全体を通して、ご発言をいただきたいと思います。石垣委員お願いいたします。

(石垣委員)

私質問したと思いますが、過度な自家用車の保有というもの、データがありますか。

(事務局)

過度というのはちょっと定性的で、こうだから過度というのは持っていませんが、1人当たり自動車保有数は全国から見ても多いと聞いています。また、自動車保有数は毎年増えていて、自動車があつて道路をつくっていくという面からの渋滞緩和策も進めているという状況となっています。なかなか公共交通へのシフトというのが進まないです。バスレーンも延長していて、公共交通のシフトなど、トライはしているところです。我慢とのバランスの世界になってくると思いますけど、過度なところではフワッとさせているというところで、本来「車は減らして公共交通に乗ってください」というところがメッセージなので、もうちょっと表現の工夫をしてみたいと思います。

(石垣委員)

前にこういうことを伺ったことがあるのです。140 数万の県民に 100 万台の車が走っていると。過度と書いた時にもデータを取って何パーセントぐらいの所有率かとか持っていらっしゃるのかなと思って尋ねました。

(事務局)

承知しました。この辺も見える化できるようにデータも整理したいと思います。

(進行)

ありがとうございます。村上委員よろしくお願いいたします。

(村上委員)

優先課題⑧、基地から派生する諸問題の解決で基地問題はいろんな問題があるので難しい

ということは先ほどから出ています。沖縄県だけで解決できるものではないので、沖縄県がいつから派生する諸問題をどれだけ抱えていて、どんな問題があるかというのをきちんと県外に発信して、国民の問題として考えてもらわないといけない、解決できない部分がたくさんあるので、このアクションの中にやはりきちんと県から発信する、県民から発信するというような内容を入れた方がいいのではないかというふうに思っています。

2番の沖縄の心に関してなんですが、沖縄の心というふうに「」で分かるのですが、これでいいのかなど。良いというのであればこれに異議をいうわけではないのですが。ここには平和を希求する沖縄の心を発信するとありますが、もちろんこの平和を希求している沖縄の心の発信も重要ですけど、先ほど言ったようにどうしてこんなに沖縄の県民が平和を希求しているのかということ発信しないといけないので、そこを何か取り組めるような内容に入れていった方がいいのではないかというふうに思っています。

子どもの教育に関してのところはどこにあるのが、パッと私が見た範囲でよく分からなくて、貧困についてはありますが、貧困対策もなんですが沖縄で育った沖縄の子どもたち、そして今からを担う子どもたちが、県の中だけでの解決にはならないということをきちんとこの県外にも出て活動できて、なおかつ沖縄県のために今後担っていけるような人材を育てるみたいな部分がちょっとよく分からなかったので、そういうところどうなってるのかと思っています。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございます。事務局お願いいたします。

(事務局)

基地関連の情報発信に関しては今県も取り組んでいるところですし、県だけではなくていろんな有識者の方も含めて活発に取り組んでいただいていますので、情報発信について入れ込めるように検討したいと思います。沖縄の心について検討します。教育については大枠としては優先課題の③のところまとめていますが、交流関係は、国際交流も含めて別なところにも入れたりしています。散りばめられているところもあって、教育、非常に重要なところですので、全体を見回しながら少し検討したいと思います。

本日の議論について、限られた時間になりますので、どうしても改めて落ち着いて考えるともう少しこういった観点があるのではないかという意見があると思います。後ほど様式を送らせていただきますので、後日ご意見という形でお送りいただければと思います。

(進行)

ありがとうございます。岩村委員、よろしくをお願いいたします。

(岩村委員)

アクションプランの文言自体はこういう感じに私としてはなっていくだろうというのはありますが、この先ですよ。例えば環境問題に関する調査結果の公表を踏まえ、汚染防止及び除去を求めるとというのが今のアクションになっていますけど、求めるために何々するところというのが実際のアクションのところかなと思うので、そこが一つ気になります。一つ一つの施策についてはこれで申し分ないというか、沢山網羅的にありますので。散りばめられたアクションを有機的につないで効率性を上げたり、イノベーションを起こすコーディネーターなどがいないところがある大きな問題だと考えておりました、追々汲んでいただいた方がいいと思っています。

(事務局)

コーディネーターの話は問題意識を持っております。先ほどご説明したプラットフォームづくりの枠組みづくりの中にはそういったコーディネート機能みたいなものは必須だろうと思っております。岩村委員は委員としてご参加いただいておりますけども、団体としてはおきなわSDGsパートナーに登録いただいておりますので、団体同士の連携促進とか一般の方々もどう巻き込んでいくかなども個別に意見交換もさせていただければと思っております。

(進行)

ありがとうございます。喜納先生お願いいたします。

(喜納委員)

1点だけ。今の岩村委員の話にもちょっと関わると思いますが、コーディネーターをされる方の視野と言いますか、SDGsの会議で色々定めていることと、振興審議会で定めていることの何か色分け、棲み分けがあんまり見えないところがあってどうしたらいいんだろうということ考えた時に、SDGsというのは沖縄が世界的な課題にどう貢献するか、その解決にどう貢献するかというベクトルも視野に入れないといけないから、沖縄を良くするというだけではなくて、沖縄がこうやって世界に貢献しようとするプロセスの中で、沖縄自体も良くなっていくのだよということを語れるコーディネーターの方とかがいると、なぜ私たちはこれを行っているのか、どこに向かっているのかということが少し明確になるのではないかという気がします。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございます。沖縄から取り組むことで世界を良くする、増して沖縄が良くなっていくという視点、重要だと思います。ありがとうございます。玉那覇委員さん最後にご発言いかがでしょうか。

(玉那覇委員)

先ほど村上先生がおっしゃっていた、沖縄から県外に発信するという言葉がありましたけど、これはまさにそうだと思います。私は、浦添市の中学生を長崎と宮崎の方に平和交流団として随行していますが、その子どもたちは本当に沖縄ではこういった戦争があったというのを全然知らないです。私はこの色々資料を持って行って沖縄戦とはこういう場面があったとか見せながら話しています。生徒に絵を見せながらやっていくが、知らない。だから村上先生の県外に発信するというのはいいことだなと思っています。私はこの2県しか行ってないが、他の県だともっともっと知らないんじゃないかなと思うのです。沖縄に米軍基地が日本の全体の75パーセントも沖縄の方に集中しているというのも県外の人ほとんど知らないし、沖縄県で米軍絡みの事件とかがあっても全国放送にもならないし、こちらの方から発信するというのも私たちも考えないといけないと思うのです。

(進行)

ありがとうございます。平和を発信していく、県外発信していくというところは非常に重要な視点だと思いますので、この表現について事務局の方でも検討していきたいと思います。全体を通してあつという間にお時間が来てしまいました。本日も議論ありがとうございます。事務局から説明がありました通り、お気づきの点があればまた、事務局までご連絡いただきたいと思います。一旦本日の議事は終了いたしまして事務局の方に進行を戻したいと思います。皆様どうもありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。本日の会議の内容については議事概要としてまとめ、皆様に確認をいただいたうえで、県のホームページで公開させていただきたいと思います。是非よろしく願いいたします。これで本日の会議の内容については終了でございます。本日はありがとうございます。